

令和8年度 小平市立小平第四中学校 学校評価計画表

学校教育目標
(令和7年4月1日 改定)

『 正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む 』

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】「安全・安心で、挨拶と笑顔があふれ、生徒と教職員、保護者、地域が力を合わせて創り上げる、チーム四中」①秩序と潤い ②いじめ根絶・学力・防災 ③伝統・創造・信頼

【目指す児童・生徒像】「自信と誇りをもち、仲間を大切に、社会に貢献する生徒」①基礎基本・自尊感情・主体的行動 ②他者理解・共生 ③道徳的な判断力・心情・実践力と態度

【目指す教員像】「率先して正しい姿を示し、生徒に寄り添い、共に成長し、よりよい教育を求め続ける教師」①共感的な姿勢・個に応じた指導 ②高い人権意識 ③保護者及び地域との連携

前年度までの学校経営上の成果と課題

☐ 成果： ☐ 学力向上 ☐ GIGAスクールの推進 ☐ 不登校支援の充実 ☐ 特別支援の充実 ☐ よりよい学級づくり ☐ いじめ防止 ☐ 地域人材の活用 ☐ 防災学習 ☐ 創立60周年の取組

■課題： ■学習者用端末の効果的活用 ■SDGs・ESDの推進 ■不登校支援・カルガモ教室の充実 ■特別支援の充実 ■ボランティア活動 ■地域連携 ■業務改善 ■人材育成

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標			
GIGAスクール 学力向上	学習者用端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践するとともに、個に応じた指導を充実し、学力の向上を図る。	学習者用端末及び授業支援システム、デジタルドリルを積極的に活用し、授業や家庭学習、授業に参加できない生徒の学習を支援する。 様々な学習機会を設定することにより、基礎学力の定着、学習意欲の向上、学習の習慣化を図る。英検及び漢検の取得を推進する。	校内研修や公開授業に学び、全教職員が学習者用端末を活用した授業を行う。ロイロノート及びスタディサブリを効果的に活用する。	4 生徒が学習者用端末を活用する授業を実践している教職員80%以上 3 生徒が学習者用端末を活用する授業を実践している教職員70%以上80%未満 2 生徒が学習者用端末を活用する授業を実践している教職員60%以上70%未満 1 生徒が学習者用端末を活用する授業を実践している教職員60%未満	4 「学習者用端末を効果的に活用している」生徒の認識80%以上 3 「学習者用端末を効果的に活用している」生徒の認識70%以上80%未満 2 「学習者用端末を効果的に活用している」生徒の認識60%以上70%未満 1 「学習者用端末を効果的に活用している」生徒の認識60%未満			
	すべての子どもたちが、安心かつ安全に過ごせる学校生活を構築する。	全校でよりよい学級づくりに取り組むとともに、道德教育を充実し、心の教育を推進する。「こだらい特別活動の日」の取組を充実する。 いじめを未然防止するとともに、いじめを見逃さない。生徒が主体的にいじめ防止に取り組む。	学級PRやエンカウンターを活用してよりよい学級をつくる。ローテーション道德及び地域と連携し道德授業地区公開講座を実施する。 いじめチェックとアンケートを学期に1回ずつ実施する。児童会・生徒会サミットの取組を効果的に活用する。hyper-QUを分析する。	4 「よりよい学級づくりに取り組んでいる」教職員の認識80%以上 3 「よりよい学級づくりに取り組んでいる」教職員の認識70%以上80%未満 2 「よりよい学級づくりに取り組んでいる」教職員の認識60%以上70%未満 1 「よりよい学級づくりに取り組んでいる」教職員の認識60%未満	4 「よりよい学級づくりに努力している」生徒の認識80%以上 3 「よりよい学級づくりに努力している」生徒の認識70%以上80%未満 2 「よりよい学級づくりに努力している」生徒の認識60%以上70%未満 1 「よりよい学級づくりに努力している」生徒の認識60%未満			
	いじめ防止	不登校・特別支援 多様な学び	学校生活や学習に不安や苦手、困難がある生徒が自分にとって、不登校の防止及び教室復帰ができるようにする。	困っている生徒の居場所をつくり、在籍学級以外での学習を支援するとともに、不登校の防止及び教室復帰ができるようにする。 特別な支援を必要とする生徒が自己肯定感を高め、本来もっている自分の力を発揮し、自信をもって生活できるようにする。	カルガモ教室において、SSTや運動、ボランティア、作業療法、学び直し等のプログラムを設定し、支援を充実する。 特別支援推進委員会の研修で教職員の理解を深めるとともに、校内支援委員会での検討により、合理的配慮等の支援を充実する。	4 「不登校防止及び教室復帰に効果があった」教職員の認識80%以上 3 「不登校防止及び教室復帰に効果があった」教職員の認識70%以上80%未満 2 「不登校防止及び教室復帰に効果があった」教職員の認識60%以上70%未満 1 「不登校防止及び教室復帰に効果があった」教職員の認識60%未満	4 不登校の新規出現率1%未満 3 不登校の新規出現率1%以上2%未満 2 不登校の新規出現率2%以上2.94%（東京都の指標）未満 1 不登校の新規出現率2.94%以上	
			教職員の勤務時間管理と健康保持を意識した働き方改革を推進する。	月2回以上の定時退勤を計画的に実践するとともに、月の時間外在校時間が45時間を超えないよう効率的に業務を行わせる。 SSSや学習補助員、学生ボランティア、PTA等を積極的に活用し、事務的な業務や行事の運営、授業以外の学習支援等を軽減する。	出退勤システムを活用して勤務時間を適正に管理し、在校時間が長い教職員の心と体をサポートする。 印刷や配布等の作業をSSSに依頼する。学習支援に学習補助員やボランティアを活用する。行事運営の補助をPTAに依頼する。	4 月2回以上の定時退勤をした教職員80%以上 3 月2回以上の定時退勤をした教職員70%以上80%未満 2 月2回以上の定時退勤をした教職員60%以上70%未満 1 月2回以上の定時退勤をした教職員60%未満	4 月の時間外在校時間が45時間以内の教職員80%以上 3 月の時間外在校時間が45時間以内の教職員70%以上80%未満 2 月の時間外在校時間が45時間以内の教職員60%以上70%未満 1 月の時間外在校時間が45時間以内の教職員60%未満	
			働き方改善	特色ある学校づくり	研究推進校として、教科横断的な視点をもち、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育を推進する。	研究の推進体制を確立し、目指す生徒像を共有するとともに、全教職員が協力して取り組む。キャリア教育について理解を深める。	研修企画委員会の研修で教職員の理解を深めるとともに、各教科においてキャリア教育と関連させた授業を全教職員が実践する。	4 「研究に協力し主体的に取り組んでいる」教職員の認識80%以上 3 「研究に協力し主体的に取り組んでいる」教職員の認識70%以上80%未満 2 「研究に協力し主体的に取り組んでいる」教職員の認識60%以上70%未満 1 「研究に協力し主体的に取り組んでいる」教職員の認識60%未満
コミュニティスクールとして、地域と一体となった特色ある学校づくりを推進する。					学校経営協議会及び地域教育コーディネーターを核として、青少対、自治会、大学、関係機関など、地域と連携した活動を推進する。	地域学校協働活動を推進し、学習補助、学習教室、職業講話、防災学習、ボランティア活動等を実施する。	4 「地域と連携した教育活動を行っている」教職員の認識80%以上 3 「地域と連携した教育活動を行っている」教職員の認識70%以上80%未満 2 「地域と連携した教育活動を行っている」教職員の認識60%以上70%未満 1 「地域と連携した教育活動を行っている」教職員の認識60%未満	4 「地域の人材や教育資源を活用できた」教職員の認識80%以上 3 「地域の人材や教育資源を活用できた」教職員の認識70%以上80%未満 2 「地域の人材や教育資源を活用できた」教職員の認識60%以上70%未満 1 「地域の人材や教育資源を活用できた」教職員の認識60%未満